

第三者意見・編集後記

第三者意見



国立大学法人 信州大学・教授
農学部応用生命科学科
農学博士 廣田 満氏

近年のいわゆるゲリラ豪雨や竜巻の発生増加など日本の気候が変わりつつあるように、グリーンランドでは氷河の消失が続き、一部では夏に小規模な野菜栽培ができるようです。

地球温暖化の抑制は待たなしの状況です。しかしながら、今年イタリアで開かれた主要国首脳会議でも各国の思惑によって、二酸化炭素排出量の削減に向けた世界レベルでの具体的目標設定

やその実行については合意を見ませんでした。一方、昨年のリーマン・ショックから始まった世界同時不況は、多くの企業の経営を厳しいものとしています。特に製造業は、環境保護の観点からも厳しいコスト負担が求められています。ハイブリッド車の成功に見られるように省エネ型製品や自然エネルギー利用の市場拡大は続くと考えられます。これら環境事業への取り組みは企業にとって大きなビジネスチャンスにもなり得ます。

前年度に引き続き、東京応化の「環境・社会報告書2009」を読ませていただきました。現在の事業環境下にあっても、東京応化には化学メーカーとして事業活動を通じた社会貢献、また、環境対策が求められ、環境を意識した経営戦略や製品開発などを行わなければ、顧客のみならずステークホルダーからも評価を得られない時代にあるとの認

識が必要です。

また、本年度の報告書では多くの情報がウェブサイトへ移行され、コンプライアンスおよび前年度の環境活動の成果についてもまとめられています。海外子会社をも含むすべての製造拠点でISO14001の認証取得など環境対策への取り組みの拡大が読み取れます。さらに新規事業において、次世代エネルギーとして注目されている太陽電池市場への参入は、東京応化ならではの技術を生かした環境対策と経済活動の両立を実現するものであると考えられます。しかしながら、低炭素社会の実現に向けた東京応化独自の中長期の目標が未設定であることや、環境活動のデータ収集が国内のみにとどまることは今後の課題として挙げられると思います。

今後も東京応化がより踏み込んだ形で、積極的な環境・社会活動に取り組んでいくことを期待しています。

第三者意見をいただいて



材料事業本部 生産管理統括部
生産管理部長 勝又 直也

前年度いただきましたご意見を受け、たいへん厳しい事業環境下ではありましたが、この1年も積極的な環境保全活動に取り組んでまいりました。具体的には、設備・機器を動かすうえでより効率のよいエネルギーへの切替、輸送形態の見直しによるCO₂排出量の削減のほか、3Rの推進により、多くの資源において廃棄物量の削減を図ることができました。

本年度におきましては、先生のご意

見にもありますように、東京応化独自の高い技術力を生かし、太陽電池に代表される次世代エネルギー製品を創出することにより、広く社会に貢献できる環境対策に取り組んでまいり所存です。また、省エネルギー法・温暖化対策推進法の法改正を考慮し、中長期の環境負荷低減目標値を明確にし、全社的な環境対策への取り組みを図ることにより、積極的な環境・社会活動に取り組んでまいりたいと考えています。

編集後記

本報告書は、多くの皆様に東京応化の環境・社会活動をわかりやすく伝える誌面づくりに意を用いて、編集するとともに詳細情報の多くをホームページに移行して作成しました。

今後も本報告書を当社グループを取り巻く多くのステークホルダーの皆様と積極的なコミュニケーションを図っていくためのツールとして生かし、新たな活動につなげていきたいと考えてい

ますのでホームページもあわせてご覧いただき、ご意見やご感想を添付のアンケートなどでお聞かせいただければ幸いです。

2009年8月
生産管理部 安全環境管理室